

週日の説教

金 大烈 神父 2010年10月23日(土)

《実を結ばないいちじくの木のために》

今日の福音(ルカ 13・1 9)を読んでも、イエス様が何を言おうとしているのか、はっきり分からなかったと思います。

何人かの人イエス様のもとに来て、質問をしました。「なぜこの世には悲しいことが起こるのでしょうか。なぜいろいろな災難が起こるのでしょうか。」と。昔イスラエルの人たちは、罪の多い人に悲しいことが起こると思っていました。ですから彼らの質問の中には、「その人達がどんな罪を犯したから、そのように悲しいことが起こったのでしょうか。」という質問が含まれています。しかしイエス様は、「それは罪のためではない。」とおっしゃいました。罪が原因であれば、この世の中の悔い改めなければならないすべての人たちに悲しいことが起こることになります。簡単に言えば、「この世の中で罪を犯さない人はいない」ということです。

そしてたとえ話をしています。たとえ話は、『実を結ばないいちじくの木』の話です。「3年間様子を見てきたけれど実を結ばないから、その木を切り倒すように。」と主人が言います。次に園丁が登場します。そして、「1年間、このままにしておいてください。周りを掘って肥しをやり、様子を見ます。そのように心をこめて世話をしても実らなければ、その時に切り倒してください。」と頼みます。

今日の福音のメッセージは、この園丁です。私たちも時々、“この世はなぜこんなに荒れているのか、なぜこんなにとんでもないことばかり起こるのか、なぜこのように残酷な事件がたくさん起こるのか。”と思います。その時、**私たちがしなければならない役割は、この園丁です。私たちには、この園丁の心が必要なのです。**もし実を結ばない木、信仰の実を結ばない人々、教会から離れている人々が、私たちの周りにいれば、その人々のために何かをしなければなりません。先ず、その木に近づかなければなりません。つまり、そのような人々に近づいて行かなければならない、ということです。そしてその周りを掘らなければなりません。『掘る』ということは、手を伸ばすことです。そしてそこに肥しをかけます。『肥し』は、イエス様のみ心です。「イエス様は今も変わらずにあなたを愛していますよ。」というみ心を伝えることです。

この福音は、そのように一生懸命にその人のために祈り、いろいろなことをして、それでも駄目ならば、後は私たちの責任ではない、と言っています。しかし、近づいて、掘ったり、肥しをあげたりしないのは、私たちの責任です。つまり、私たちの信仰の生活は、ただミサを捧げるだけではない、ということです。心を痛めている人を探して、その人のために何かをすることが私たち信者の義務なのです。

今、フィリピンのコミュニティがそのようなことのために集まり、祈っていることは知っています。本当に感謝の心です。何週間か前にも皆様に話しましたが、この太田・大泉にはたくさんのフィリピ

ンの人々がいます。ほとんどの人がいろいろな痛みを持っています。そして、自分は罪が多いから教会に行けないと思っています。今日の福音のいちじくの木と同じ心です。罪のために実を結べない、と思っています。いちじくの木のような兄弟・姉妹がたくさんいるのです。

皆様、皆様と同じフィリピン人の兄弟姉妹のために頑張りましょう。その人々を教会に連れて来ましょう。それが今日の福音でイエス様が皆様におっしゃったメッセージだと思います。

日本人の家族も同じです。たくさんの人々がいろいろな理由によって教会から離れています。その人々のために手を伸ばしましょう。

ありがとうございました。